

浄国寺通信

第13号
平成25年10月7日
発行
熊本市北区
高平 2-20-35
曹洞宗 浄国寺
編集者
中山 義昭



お詫び申し上げます

腰椎の骨折

今年、七月のお盆が終わった十七日、諸作業の疲れが出たのか、不注意で寺の庫裏の階段から足を踏み外し、腰をしたたかに打ってしまいました。診断の結果「第三腰椎の破裂骨折」との事。幸い、脊髄の神経に触れるところは無事だったので、外科手術はせずに済みました。その代わり、四週間のベッド上絶対安静。その後、装具を付けての訓練等で都合2ヶ月あまり入院してしまいました。八月の初盆を予定されていた方々、その他、この2ヶ月中に法事を予約された皆様、又、葬儀になられた方々等、壇信

徒の皆様にも多大の迷惑をかけてしまいました。この紙面を通じ改めてお詫び申し上げます。

晋山式の延期

前年から連絡していましたが、今年の十一月に住職の晋山式を挙げる予定でした。これは、一つには、早くきちんとけじめを付けたいという部分、更には、兼業しています幼稚園の業務に関して国の制度が、変わりその準備活動を行う時期になっていた為です。その為、寺の普請その他、準備活動を行ってききましたが、最も集中して晋山式の準備を行べき二ヶ月間、入院加療で全く動けませんでした。更に骨折箇所が腰というもあり、十



幕類を新調し、両脇の仏像を安置した改装後の大間



大権修理菩薩像 達磨大師像

一月には儀式的執行に無理があるかと判断しました。お手伝いを戴く近隣の方丈様(僧侶の皆様)とも相談して、改めて体制を整え直して準備活動に入ろうと思っております。壇信徒の皆様には、お祝いや御寄進等も戴いております。しっかりと準備して、立派な晋山式になるよう生かして参る所存です。また、装具をつけていますし、動きの叶わない部分もあります。養生に努めてお寺の為に頑張つて勤めて

子ども達の未来

参りますので宜しく御願ひ申し上げます。

ご存じのように、私は併設している幼稚園の理事長(園長)を任職と兼任しています。師匠が設立した教育施設を発展させて、子ども達が将来、より良い人生を送る礎を作ることにも僧侶の布教のひとつと考え、幼稚園の運営にも積極的に関わってきました。しかし、近年特にバブル以降になると、グローバル化の発展に名を借りた成果主義という形での二極化と弱者切捨の政策と風潮が蔓延してきました。「老人と子ども」は社会的な強者にはなれません。国の経済力の衰えのしわ寄せは、弱者に反映されます。特に日本は教育に對しての支出は世界でも低い方、幼児教育への支出は、先進国中最下位クラスです。どうかにかしたいと考え幼稚園団体の代表として、この十年東奔西走してきました。この為、壇信徒の方々にも迷惑をかけてしまった部分

住職 多謝九拝

も多々あります。そして、昨年の三党合意に基づく「子ども・子育て支援法」の成立によって制度は大きく変わろうとしています。これ以上は、熊本の一園長の力など蟻の力です。このまま、この問題だけに留まっても出来ることは限られますし、自園の存亡の問題もあります。新しい制度の枠内で、園を充実発展させ、より良い施設とする為には早期の対応が必要と思われまますので、園舎を一棟増築することにしました。急ですが、工事を今年度の後半に実行します。先に晋山式を済ませてからとも考えましたが、上記の理由で無理があるし、私にはどちらも大切な事です。諸般の予定から晋山式の挙行は一年延期して来年の秋に考えております。皆様にはご迷惑をかけるますが、何とぞ、ご理解を賜りますようお願い申し上げます。

寄付等の質問

現代の仏式の葬儀離れや僧侶に対する批判や非難で良く聞くのは院号料(戒名料)の問題と寄付金の要求があります。改修工事(例えば晋山式等)の際、檀家総代会の方から、寄進や寄付の勧募が多くて困るというのも通常よく聞く話です。毎回、お話ししてはいますが、私は幼稚園長として生計をたて、お寺への布施は、全て寺の為に使うようにしております。おかげさまで、今回も、大規模な工事等は行わなくても済むように日頃より寺の普請に努めてきました。今回は、古くなった柱巻や幕等(五色幕も含め)の布の取り替え、開山歴代住職の位牌を祀る開山堂、禅を中国に伝えた達磨大師、道元禪師が日本に禅を伝える事を守って下さった大権修理菩薩を本尊様であるお釈迦様の両脇に祀る場所の作成と仏像の安置を行いました。

それでも、本堂の一部改築や什物の購入等若干の費用はかかっています。今回の晋山式に当たり、寺報に記したところ、お祝いを既に寄進して頂いた方もいらつしやいます。この場を借りて心より御礼申し上げます。住職として、皆様に無理を申し上げるつもりはありません。ただ、なんらかの気持ちをお寺の維持と発展の為に、お示し頂ければ、幸甚至極に存じます。

「布施の意味」
現代では、布施という言葉が僧侶に対しての報酬や読経への謝礼のように思われていますが、布施とは見返りを期待することなく、自分の持っている力や財物、そして智慧を供える修行が本来の「布施」の意味です。

「お寺とは」
浄国寺は、私の所有物ではなく、単なる職場でもありません。壇信徒の方々が先祖の供養を行い、仏法を学ぶ為の場所として浄国寺は存在します。私は寺の維持管理を行いながら、皆様のご先祖様を供養し、少しでも縁のある人々が仏法を学び、良く生きることができるように、自分自身の研鑽に努め、壇信徒への布教を行う事が最重要な任務です。人生が終わるまで、修行は続きますし、人生を生かされている事が仏の姿だと

と思います。日々、煩惱の中に生きてるのが我々です。しかし、生きていくこと自体が大切ですし、少しでも良く生きることが重要です。縁のある人々に仏の教えを通じ、一緒に過ごしていけるよう住職として精進する所存です。宜しく御願ひ申し上げます。

いま、心にZEN
十一月十二日(水) 午後六時半
仏教小談 鈴木良雄ジャズライブ

亡き人を供養する事は大切ですし、お寺の重要な役割です。同時に生きていく人が生きる術を仏法に学ぶ場所である事も寺の存在理由だと思っています。その一つの形として、昨年から「いま、心にZEN」という企画を始めました。お寺の敷居を低くしたいと言う願いが契機でした。ただ、折角お寺に入るなら、何かお土産(智慧)を持って帰って欲しいと思ひ、私の大好きなジャズと仏教の話をもつて、毎年恒例のイベントにしまし



昨年 浄国寺にて

た。今年も毎年来てくれている世界的に有名なジャズベテランの鈴木良雄さんが来てくれます。競演者は、一昨年プレイした一流ジャズピアニスト山本剛さんがデュオで素晴らしい晴らしい(多分、東京のジャズクラブなら結構な価格のライブです)を演奏してくれそうです。お話しは、私が定例の木曜坐禅会で話している事を題材に「禅に学ぶ生きるヒント」と題して、少しお話しを致します。日常の心の処し方の足しにでもなれば有り難いと思ひます。演奏会の方は協力金として三千元を御願ひ致します。会場では、音楽は音楽として満喫できるように、飲み物(現金販売)等も少し用意します。是非足を運んで下さい。壇信徒の方だけではなく、参加はどなたでもウェルカムです。お待ちしております。

身辺雑記
この数年、木曜坐禅会の参加者が増えた。有り難い。一人でも禅に触れる方が増えるのは本望だ。でも、何故だろう?一度坐つてみたいと思つた方が、機会を得たので、来られる。その中には、熊本文学隊の隊長で詩人で執筆家の伊藤比呂美氏もおられる。アメリカ在住だが、熊本市に戻つた時は坐りに来られるし、雑誌にも坐禅体験記を書いてくれた。その他にも、思つてもみなかった大病(癌など)に出会い、仏教のことなんか考えたこともなかったけど、自分の人生を振り返りたくなり坐禅会に顔を出されるようになった方もいらつしやる。考えようと思つても、私達は、この世に生を受け、死ぬまで生きていく。自分の意志で生を受けた人間などいない。それでも自分の足で歩かねばならない。でも自分一人の足だけで、自分一人だけで歩いていく訳でもない。様々な関わり合い(これを縁と呼びたい)の中で生かされている、しかも、その終わりは誰も決めることができないなら、今の一瞬を、今の出会いを、今の生き場所を大切に歩いて行く。これも「禅」だろう。「人間、飯食つて、寝て、坐禅して、それでお終い」沢木興道老師の名言だ。

木曜坐禅会(初回要連絡)
毎週木曜 夜八時より
坐禅一炷 仏教講話
会費 会則 一切なし